

ハスモンヨトウによる農作物被害に注意してください！

岡山県病害虫防除所の調査によると、赤磐市のフェロモントラップにおける本虫の **8月の誘殺数は2,723頭と平年(1766.2頭)の約1.5倍となっています。**また、9月1日～2日の巡回調査によると、県下全域のハスモンヨトウ若齢幼虫の食害によるダイズの被害葉(白化葉)の発生圃場率は17.4%で、平年(19.9%)並ですが、**県南部では50.6%と平年(29.1%)より高く、被害が多い圃場の割合も平年に比べ高くなっています。**さらに、今後も本虫の増殖にやや好適な高温条件が続く見込みのため、被害が拡大する懸念があります。

本虫は広範な作物を加害します。下記(5)の加害作物を栽培している圃場では、注意深く観察し、幼虫の発生を確認した場合は速やかに防除を実施するとともに、現時点で幼虫の発生を認めなくても、引き続き早期発見、早期防除を行ってください。

<防除対策及び防除上の参考事項>

- (1) 若齢幼虫が群生している被害葉(白化葉)を切り取って処分する(図1)。
- (2) 幼虫が中齢(体長約2cm、図2)以上になると白化葉から移動、分散して食害するようになり、被害量が増大するだけでなく、薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫期に薬剤散布を行う。
- (3) 薬剤散布に当たっては薬剤が葉裏にも十分かかるよう留意する。また、薬剤散布後は幼虫の生死等防除効果を確認するとともに、その後の幼虫の発生に注意する。幼虫が生存している場合は、薬剤抵抗性の発達が懸念されるので、系統の異なる薬剤で防除する。
- (4) ダイズ及びエダマメにおける主な防除薬剤は表1、2のとおりであるが、その他の作物については、各作物に登録のある薬剤で防除する。なお、薬剤抵抗性の発達の恐れがあるため、同じ系統の薬剤の連用や効果が低下した薬剤の使用は避ける。また、薬剤の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努める。
- (5) 本虫はダイズ以外に、雑穀ではアズキ、野菜ではサツマイモ、サトイモ、キャベツ、ナス、ハクサイ、ダイコン、カブ、レタス、ネギ、トマト、ピーマン、ニンジン、イチゴ、アスパラガス、ブロッコリー、果樹ではブドウ、カキ、カンキツ類、花きではキク、バラ、シクラメンなど広範な作物を加害する。



図1 若齢幼虫の食害によるダイズの白化葉と卵塊



図2 中齢幼虫(体長約2cm)

表1 ダイズにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤（令和2年8月26日登録状況）

系統名	薬剤名	農業使用基準			RACコード
		使用時期	使用回数	希釈倍数・使用量	
合成ピレスロイド	トレボン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	1000倍	3(A)
	トレボン粉剤DL（*1）	収穫14日前まで	2回以内	4kg/10a	3(A)
IGR （脱皮阻害 ・脱皮促進）	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000～4000倍	15
	ノーモルト乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000倍	15
	カスケード乳剤	収穫7日前まで	2回以内	4000倍	15
	ロムダンフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	2000倍	18
	ロムダンゾル	収穫14日前まで	3回以内	1000倍	18
	マトリックフロアブル	収穫前日まで	3回以内	2000～3000倍	18
その他	ディアナSC（*1）	収穫前日まで	2回以内	2500～5000倍	5
	アニキ乳剤	収穫前日まで	3回以内	2000～3000倍	6
	フェニックス顆粒水和剤	収穫7日前まで	3回以内	2000倍	28
	フェニックスフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	2000～4000倍	28
	ブレバソンフロアブル5	収穫7日前まで	2回以内	4000倍	28
	ベネビアOD（*2）	収穫7日前まで	3回以内	2000～4000倍	28
	トルネードエースDF	収穫7日前まで	2回以内	2000倍	22A
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	1000～2000倍	22B
	プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	1000～2000倍	-
	グレーシア乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000～3000倍	30
	ヨーバルフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	5000倍	28

（*1）豆類（種実）で登録

（*2）TPNを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害の恐れがあるので避ける

表2 エダマメにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤（令和2年8月26日登録状況）

系統名	薬剤名	農業使用基準			RACコード
		使用時期	使用回数	希釈倍数・使用量	
ピレスロイド	トレボン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	1000～2000倍	3(A)
	トレボン粉剤DL	収穫14日前まで	2回以内	3～4kg/10a	3(A)
IGR （脱皮阻害・促進）	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000～4000倍	15
	ノーモルト乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000倍	15
	カスケード乳剤	収穫前日まで	2回以内	4000倍	15
	マトリックフロアブル	収穫前日まで	3回以内	2000～3000倍	18
その他	ディアナSC（*1）	収穫前日まで	2回以内	2500～5000倍	5
	アフーム乳剤	収穫3日前まで	2回以内	1000～2000倍	6
	アニキ乳剤	収穫前日まで	3回以内	2000～3000倍	6
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	2000倍	28
	フェニックスフロアブル	収穫前日まで	3回以内	2000～4000倍	28
	ブレバソンフロアブル5	収穫3日前まで	3回以内	4000倍	28
	ベネビアOD（*2）	収穫前日まで	3回以内	2000～4000倍	28
	トルネードエースDF	収穫7日前まで	2回以内	2000倍	22A
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	1000～2000倍	22B
	プレオフロアブル（*1）	収穫前日まで	2回以内	1000～2000倍	-
	グレーシア乳剤	収穫前日まで	2回以内	2000～3000倍	30
ヨーバルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	5000倍	28	

（*1）豆類（未成熟）で登録

（*2）TPNを含む農薬、ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害の恐れがあるので避ける

農薬の使用に当たっては農業使用基準を厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

